



人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

市川市教育振興基本計画

～次のような目標を掲げています～

- 子どもの姿** 自分や他人を大切に、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる
- 家庭・学校・地域の姿** 自らの役割と責任を担いながら、たがいに連携して教育の向上に取り組む家庭・学校・地域を実現する
- 市川の教育の姿** 教育環境の整備を図り、質の高い市川の教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
〒272-0023
市川市南八幡1-17-15
TEL 334-1111

■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

●平成30年度教育行政の方向性●

市川市教育委員会では、教育理念「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」のもと、様々な施策に取り組んでいます。

近年、グローバル化や情報化、少子高齢化や技術革新の飛躍的進展等、社会構造が大きく変化してきています。このような変化の激しい社会においては、時代の変化に応じて、誰もが生涯に渡って新たな知識や技能等を身に付けることができる「学び続ける社会」を実現していくことが重要です。また、学校教育においても、子供たちが時代の変化に主体的に対応し、自らの可能性を発揮しながら、人生を切り拓いていけるよう、「生きる力」の確実な育成が求められます。

そこで、新年度は、「地域社会における生涯学習」をさらに充実させるとともに、新学習指導要領の全面実施に向け、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「学校づくり」「教育課程づくり」「授業づくり」「職場づくり」の4つのづくりを推進しながら「生きる力」を育成するための取組を着実に進めて参ります。

【教育政策課】

地域社会における生涯学習の充実

＜「学び続ける社会」の実現＞

- ◇個々における生涯学習の学びが活動となり、その成果が地域の課題解決につながるよう、地域社会における生涯学習の場の充実に取り組みます。
 - 知識や技術を習得する学びの場
 - 学習者同士やそれを取り巻く人々との出会いの場
 - 地域課題の解決に活かす場



生きる力

地域力

学校づくり



＜「社会に開かれた教育課程」の実現＞

- ◇家庭・学校・地域が一体となった「地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）」と学校段階間の連携を図った「連続ある学びの実現」に取り組みます。

教育課程づくり

知・徳・体のバランスに配慮した教育課程の改善に向け、カリキュラム・マネジメントの推進を図ります。

授業づくり

「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、創意工夫を生かした特色ある教育活動を充実します。

職場づくり

「チーム学校」として取り組むとともに、教育委員会も一丸となり、学校の業務改善を進めます。

3/16 国の制度改革と市川教育⑨

～小学校英語教育の充実と市川市の取組～

昨年3月、国で学習指導要領の改訂が行われ、小学校は平成32年度から、中学校は平成33年度から、それぞれ全面実施することとなりました。そのうち、今回特に大きく内容が変わる小学校の英語教育については、全面実施への移行を円滑に進めるため、平成30年度から先行実施することとなっています。小学校英語教育の充実の背景や改訂の内容、そして市川市の取組を紹介します。【教育次長 松下 大海】

◎背景

グローバル化の進展等により、これからの社会は、多様な文化や価値観を持つ人々との関わりがより一層求められることが予測されています。こうした時代を生き抜き、日本人が世界の様々な場面で活躍するためには、語学力やコミュニケーション能力、国際理解といった資質・能力の育成が重要となります。外国語を使って多様な人々と目的に応じたコミュニケーションを図ることは、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面が必要とされることが想定され、その能力の育成が課題となっています。こうした背景から、英語教育の早期化・教科化を図ることや小中高の学びの接続を重視すべきといった議論が中央教育審議会でなされ、答申としてまとめられました。

◎改訂の内容

中央教育審議会の答申に基づき改訂された小学校学習指導要領では、3・4年生に「外国語活動」が導入（早期化）され、5・6年生に「外国語科」が導入（教科化）されます。3・4年生で「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、5・6年生に「外国語科」を導入し、段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うこととしています。これにより、全面実施以降は、3年生以上の各学年の授業時数がそれぞれ年間35コマ増えることとなります。なお、平成30年度からの先行実施期間中は、それぞれ年間15コマを増やして、これらの内容の一部を必ず取り扱うこととされました。



◎市川市の取組

市川市教育委員会では、学習指導要領の改訂後、速やかに検討委員会を立ち上げ、授業時数の増に対応するための方策を検討したり、国から指定を受け、先進的な英語教育の研究を開始したりするなど、各小学校が円滑に先行実施から全面実施に移行していきことができるよう、必要な準備を進めてきました。小学校英語教育の充実に関する市川市の主な取組を右に記します。

◆小学校英語教育の充実に関する市川市の主な取組

- 平成30年度（先行実施）から、全面実施と同水準の授業時数（年間35コマ増）を確保し、小学校の英語教育を充実（3・4年生は「外国語活動」を年間35コマ、5・6年生は「外国語科」を年間70コマ実施）
- 市独自で配置している「外国語活動指導員」を3倍増（13名→36名）し、学級担任とのチームティーチングを充実（※2月市議会定例会に係る予算を上程中）
- 小・中学校間の学びの連続性を重視した先導的な英語教育の実践研究を実施し、研究成果を市内及び全国に還元（国指定）
- 増加する授業時数を確保するための柔軟な時間割編成等に関する研究を実施し、研究成果を市内及び全国に還元（国指定）

リオ・パラリンピック 車椅子バスケットボール日本代表 菅野小学校出身 土子大輔選手 講演会



11月30日(木)、菅野小学校においてリオ2016パラリンピック競技大会に車椅子バスケットボール日本代表として出場した土子大輔選手を招き、講演会を行いました。

菅野小学校出身の土子選手は26歳の時にオートバイの事故で右足の膝から下を失い、入院とリハビリを繰り返す中、10年ほど前から車椅子バスケットボールを始め、リオでは日本代表に選ばれました。

第1部では、全校児童に向け事故で足を失った時のこと、車椅子バスケットボールを続けていく上で大切にしていること等について、第2部では福祉を学習している4年生に「障害者と共に生きる」というテーマで話をさせていただきました。

土子選手が競技を続けていく中で大切にしていることは、応援してくださる方へ感謝の気持ち、そして、何のために車椅子バスケットボールをやっているのか、その理由を常に考えることだそうです。何のために車椅子バスケットボールをやっているのか。それは、事故で心配をかけた母親にオリ

ピックのメダルをかけてあげたい、その思いからパラリンピック出場を目指し競技を続けているとのことでした。

講演の中で、実際に車椅子に乗ってドリブルやシュートを見せていただきました。シュートが決まると児童からは大歓声が起こりましたが、体育館の床と車椅子のタイヤが擦れる音から、競技の激しさも伝わってきました。

土子選手からは、障害者への正しい認識を持ってほしい、そして、自分の夢を持ってほしいとのメッセージが送られました。

【教育センター】



市川の教育に貢献

須和田の丘支援学校にて行われている「須和田日曜大学」が、障害者の生涯学習支援活動の普及及び発展に貢献し、顕著な成果を挙げた団体として、文部科学大臣より表彰されました。

須和田日曜大学 文部科学大臣表彰

12月7日(木)に行われた表彰式には、須和田日曜大学 久保田理美子代表と高梨治夫 須和田の丘支援学校長が出席し、表彰状が授与されました。

「須和田日曜大学」は、須和田の丘支援学校高等部の卒業生を中心に、卒業後の余暇活動の一つとして、生活を豊かにすることを目的に、昭和50年に始まり、今年度で42年目を迎えます。

月1回程度、ソフトボールやボッチャ、調理、カラオケなどの様々なサークル活動が行われ、毎回、約40名の会員が、年齢に関係なく、友だちやボランティアと親睦を深めながら楽しく参加しています。

この度の表彰を受け、今まで日曜大学に関わってきた方々へ敬意を表すとともに、今後も障害者の生涯学習を支える場として、ご尽力いただくことを願います。【指導課】



氏名	役職
山田 浩一	市川市立真間小学校 校長
金子 俊郎	市川市立二俣小学校 校長
早川 清	市川市立百合台小学校 校長
櫻井 茂樹	市川市立南浜小学校 校長
水越 英明	市川市立妙典小学校 校長
小松 秀夫	市川市立第三中学校 校長
藤平 一成	市川市立第七中学校 校長
高間 京子	市川市立行徳小学校 教諭
栗原 恵子	市川市立北方小学校 教諭
川添 陽子	市川市立大柏小学校 教諭
高山 礼子	市川市立塩浜学園 教諭
徳 清美	市川市立大町小学校 養護教諭
藤巻 豊	市川市立福栄中学校他 学校医
菅田 隆久	前市川市立平田小学校 学校医
小林 則之	市川市立富貴島小学校 学校歯科医
山崎 美智子	市川市立中国分小学校 学校薬剤師

◆市川市教育委員会教育功労者

- ◆千葉県教育功労者(千葉県教育委員会)
 - 〈個人の部〉
 - 市川市立市川小学校 校長 山京元
 - 市川市立第四中学校 校長 極幸
 - 市川市立第八中学校 校長 敬恵
 - 〈団体の部〉

教育功労者の表彰は、教育、学術または文化の振興などに関し、特に功績が顕著であった個人または団体を表彰するものです。



【教育総務課・教育センター】

教育委員交流会

教育委員会では、子供たちや保護者、教職員の意向を知り、教育行政に活かすため、教育委員との交流会を行っています。11月から2月の間に8校、合計14校で実施されました。【教育センター】

生徒会が行っている「いじめ撲滅キャンペーン」の活動の様子を、平田(信)委員と松下教育次長が、参観しました。キャンペーンでは、「いじめを許さない」という強い意志を表す、オレンジ色のリボンが配付されていました。

南行徳中 11/6

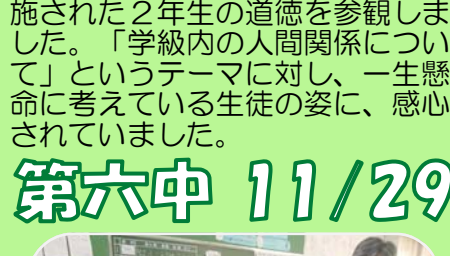


富美浜小 11/16



平田(信)委員と松下教育次長が、日本語指導教室を参観しました。中国やタイ、フィリピンといった各国の文字の読み方や意味をクイズ形式で出題しながら、それぞれの言葉や文化の違いを楽しみ児童の様子が見られました。

第六中 11/29



平田(信)委員と平田(史)委員が、学校支援実践講座として実施された2年生の道徳を参観しました。「学級内の人間関係について」というテーマに対し、一生懸命に考えている生徒の姿に、感心されていました。

大洲中 11/30



田中教育長、五十嵐委員と、2年生との交流会が開かれました。交流会は、ダンスや学年合唱の発表の他、「仕事のやりがい」や「中学生へ伝えたいこと」など、教育委員への質問タイムもあり、和やかな雰囲気となりました。

学校支援実践講座

～交流会について～

学校支援実践講座は、地域全体で「いじめ」の未然防止を図るため、千葉大学教育学部 藤川大祐教授の協力を得ながら進めている市川市独自の取り組みです。

人権講座【学校支援実践講座】の受講者は、講座を受講し「地域支援者」として小・中学校に訪問し、子供たちと自由に話し合う事ができる交流会に臨んでいます。

今年度は、昨年度よりも5校増え18校65学級の小・中学校において「交流会」が行われました。「交流会」では、地域支援者の皆さんの優しい眼差しで子供たちの緊張もほぐれ、和やかな雰囲気になりました。また、児童・生徒一人一人の自由な考え・意見を引き出してくれることから、子供たちは、交流会を通して、多様な考え方があることに気づき、「相手の立場になって考える」「自分の言動や行動の振り返り」や「安心感」にもつながっています。考えを深め視野を広げる貴重な2時間となっています。

【学校地域連携推進課】



【交流会後の児童・生徒の感想】一部抜粋

- 私に興味を示してくれている。私達を応援してくれる人がいる。「助けて」と声を出せばいつでも助けてくれる人がたくさんいること、とても心強く感じました。《小5・女子》
- 地域の人ととの交流会があったらやっぱり楽しいんだなとわかりました。自分も大人になったら、学校の交流会に参加したいと思いました。《小5・男子》
- 自分は人の言うことに対して、反論する事が多くありました。その時に思ったのが、人は感性がそれぞれ違って、人の意見も受け止めて考える事が大事だと思いました。《中1・男子》

市川市道徳教育映像教材を制作しました



小学校では平成30年度より道徳が教科となり、教科書を主たる教材として使用することになりますが、併せて、地域教材などの多様な教材を活用した創意工夫ある指導が求められています。

市川市教育委員会では、この度、小学校低学年向けの道徳教育映像教材を制作しました。平成30年3月中に各小学校・義務教育学校・特別支援学校に配付し、4月以降、各学校で活用する予定です。

制作にあたっては、千葉大学教育学部 藤川大祐教授に監修を依頼し、子供たちが主体的に考え、多様な意見に触

れながら、いじめについて考えていくことができる内容となっています。また、映像教材の巻末には、どの学年でも活用できるように、平成28年度に策定した市内共通の規範に関する指針「いちかわ子ども宣言」が盛り込まれています。

撮影に際しては、大町の市川市動植物園、行徳にある常夜灯公園など、市内をロケ地としました。

子供たちが教材に親しみを持ち、登場人物を身近に感じながら考え、話し合いを通して自分自身と向き合い考えを深める姿が、市内の各学校で見られることを期待しています。【指導課】

心の教育・学校飼育動物管理指導

「学校飼育動物管理指導」は、市川浦安獣医師会の先生方による「命の大切さを学ぶ特別授業」です。今年度は10校で実施されました。

獣医師の先生は、授業で2枚の写真を子供たちに見せます。1枚はうれしそうな表情の犬の写真。傍らには笑顔で寄り添う飼い主の姿があります。対してもう1枚は、飼い主がわからずに施設に保護された不安そうな表情をした犬の写真です。この犬の表情のちがいは、子供たちに様々な思いを抱かせます。

「飼い主に大切にされている犬は本当に幸せそうだね。犬にも君たちと同じように心があるんだよ。ペットを飼う時は、飼育する動物が幸せを感じることができるよう大切に飼ってあげてください」という、獣医師の先生の言葉に子供たちは大きくうなずいていました。

動物との関わりから子供たちに思いやりや命を大切にする心を育む貴重な機会として、「学校飼育動物管理指導」を今後も実施してまいります。【指導課】



第18回 縄文フェスティバル in堀之内貝塚を開催

子供から大人まで楽しめるイベントとして、地域の皆さまに親しまれている「縄文体験フェスティバルin堀之内貝塚」も、今年で18回目を迎えることとなりました。

古代の生活を体感できる、火おこし体験や複製の縄文土器で煮たあさり汁の試食会の他にも、紋切り遊びや拓本体験など、博物館ならではの体験ができる1日となっています。また、当日は地域の皆さまによるバザーや野菜の直売会などの催しも開催予定です。(※内容は、都合により変更になることがあります。)

体験によっては一部有料のものもありますが、事前申し込みは不要となっています。皆さまのお越しをお待ちしています。

日時 平成30年3月25日(日) 10:00~14:00

雨天時は縮小開催、荒天時は中止

会場 考古博物館・歴史博物館・堀之内貝塚公園ほか

参加費 入場無料、事前申し込み不要 一部定員のあるものや、体験費のかかるものもあります。

その他 駐車場が大変混雑しますので、公共交通機関をご利用ください。

問い合わせ 考古博物館 373-2202

歴史博物館 373-6351

【考古博物館】



6年生の代表委員10名による、「卒業までに自分たちが学校のためにできること」というテーマの意見交換会が開かれました。参観された平田(信)委員は、「自分より相手の立場を考えて、活動されていることが、素晴らしいですね」と、話されました。

南新浜小 12/14



新浜小 1/18



6年生がキャリア教育の一つとして「自分がしたいことベスト10」と題し、平田(信)委員と松下教育次長を交えた意見交換会を行いました。お二人からは「自分のやりたいことはあきらめず、目標に向かって取り組んでほしい」というメッセージが、子供たちに伝えられました。

6年2組のキャリア教育の授業を、五十嵐委員と島田委員が参観しました。子供たちの発表を受けて、「これからのみなさんは、何にでもなれます。今できること、色々なことにチャレンジしてください」と感想を述べられました。

二俣小 1/24



中国分小 2/8



島田委員と大高委員が、児童会活動として取り組んでいる9つの委員会の、活動報告会に参加しました。お二人は、各委員会の委員長を務めている児童へ、活動中に大変だったことや、活動内容についての質問をされていました。

第23回市川市特別支援教育振興大会

1月31日(水)、「第23回市川市特別支援教育振興大会」が市川市文化会館小ホールにて開催されました。本大会は、様々な人々が個性を認め合い、生き生きと活躍できる共生社会の実現を目指して推進されている特別支援教育の取組について、広く一般市民や保護者に理解・啓発を図ることを目的として2年に1回開催されています。

基調報告では「市川市特別支援教育推進計画(第2期)」に基づいた取組として、ユニバーサルデザインの視点を生かした学校づく

りや、継続的な支援を目的とした「市川スマイルプラン」などが紹介されました。第五中学校わかさ学級の発表は、インフルエンザのためDVDの上映となりましたが、練習時の様子から実際の合唱の発表まで、一人一人の思いを込めた歌声が会場に響きわたりました。

精神科専門医 中野三津子氏による「児童精神科の臨床からレジリエンスを中心に」という記念講演では、レジリエンス(立ち直る力、精神的回復力)は人との関係を通して育つこととお話していただきました。レジリエンスを育てるためのポイントは、相手と横に並んだ(対等な)状態で話を聞くこと、自分



の感情や感覚に気づくこと、そして自分がされてうれしいことを相手にすることだそうです。具体例を挙げた分かりやすい講演は、多くの共感を得ていました。

【指導課】

教育実践記録論文

平成29年度教育実践記録論文表彰式・発表会が、2月2日(金)に教育センターで行われました。教育実践記録論文は、教育実践をまとめることで教職員の自己啓発を促すことを目的に昭和54年に始まり、今年度で39回目を迎えています。

今年度は、一般部門に7点、フレッシュ部門に5点、合計12点の応募がありました。各教科や学級経営の他、国際理解教育や特別支援教育などについて取り上げた内容からは、これからの時代に求められる教育に対して、ひたむきに取り組んでいる教職員の姿が感じられました。受賞された皆様、おめでとうございます。

【教育センター】



「一般部門」

※同じ賞については学校番号順で記載してあります。

賞	学校名	氏名	職	分野	テーマ
最優秀	新浜小	直枝 祐樹	教諭	学級経営 国際理解教育	心を一つに ～クラス全員で行う国際理解 火んを事例として～
優秀	市川小	瀧原 愛	教諭	特別支援教育	仲間と関わり合う国語の時間を狙って ～特別支援学級における一斉授業のあり方について～
優良	市川小	吉田 航	教諭	生徒指導	教育目標具現化に向けて生徒指導主事としての取り組み ～めあてを持ち「気付き」を大切に「育てる生徒指導」を目指して～
優良	南新浜小	加藤 慎二	教諭	算数・数学	友だちと関わり合い、個々の考えを高め合う児童の育成 ～生徒指導の機能を生かした算数科の授業づくりを通して～
優良	第四中	長崎 誠 赤澤 智恵 中島 葉子	教諭 教諭 学校司書	学校図書館	各教科等のねらいを達成するための学校図書館の活用と、具体的な調べ学習の指導方法の研究
努力	大洲中	岡田 義高	教諭	理科	中学校理科における課題の発見解決に向けた主体的・協働的な学びの実践
特別	南新浜小	櫻井 茂樹	校長	学校経営	子どもが絶対調と言える学校を目指して ～地域とともにある学校づくりの側面から～

経験5年以下「フレッシュ部門」

※同じ賞については学校番号順で記載してあります。

賞	学校名	氏名	分野	テーマ
最優秀	市川小	千葉 直人	保健体育	『積極的に運動やスポーツに親しめる学校環境の整備』 ～児童の体力向上を目指して～
優秀	新浜小	新木 悟	図画工作	誰もが楽しめる図画工作科の鑑賞学習をめざして ～アートカードを用いた、感性を豊かにするトレーニング～
優秀	南新浜小	後藤 美咲子	道徳	豊かな心を育てる道徳教育
優良	中山小	深澤 祐介	学級経営	一人一人の個性が認め合える集団づくりを目指して ～「ニ52コ」で「唯一62」な2年間の学級経営を通して～
優良	宮久保小	小野 貴仁	学級経営	相手を思いやり、自分から他者と良好な関係を築きあげられる児童の育成 ～朝の質問タイムとほめ言葉シャワー～

特別支援学級(知的及び自閉症・情緒)

南部地域にそれぞれ1校ずつ開設

市川市教育委員会では、特別支援教育推進に係る環境整備のため、市内の小・中学校に知的の特別支援学級を26校、自閉症・情緒の特別支援学級を5校開設しております。

近年、個に応じた教育的支援のニーズの高まりから、市内の設置バランスを考慮し、平成30年4月より下記の2校に、特別支援学級(知的及び自閉症・情緒)を開設する予定です。

【特別支援学級(知的)】

市川市立南行徳小学校 所在地：市川市欠真間1-6-38

【特別支援学級(自閉症・情緒)】

市川市立福栄小学校 所在地：市川市南行徳2-2-1

なお、開設に関するお問い合わせにつきましては義務教育課に、入級に関するご相談は教育センターにご連絡ください。

○義務教育課 383-9261
(月曜日～金曜日 午前9時～午後5時)

○教育センター 320-3336
(火曜日～土曜日 午前9時～午後5時)

【義務教育課】

子供にかかわる相談は、ここでできます！

◆教育相談(教育センター)

予約TEL 320-3336 火～土(午前9時～午後5時)

対象：3歳～中学校3年生

様々な悩みに関して専門的知識を持つ教育相談員が面接相談をしています。

◆ほっとホット訪問相談(教育センター)

TEL 320-3362 火～金(午後0時30分～午後5時)

対象：小学校1年生～中学校3年生

不登校や子育てについての相談を電話でお受けしています。自宅等に出向いてお話を伺うこともできます。

◆少年相談(少年センター)

TEL 320-3340 月～金(午前9時～午後5時※木は午後7時)

メールアドレス youngnet@city.ichikawa.lg.jp

対象：小学校1年生～20歳未満

家庭生活、交友や健康など様々な悩みの相談(電話、メール相談あり)を受け付けています。

本人の相談も可能です。

【教育センター】



この「教育いちかわ」はWebサイトでもご覧いただけます。「教育いちかわ」で検索、または市川市教育委員会のWebサイトからアクセスしてください。(「教育いちかわ」のバックナンバーも掲載しています。)